

ブレーメン経済工科大学 交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際言語文化学科 4年 ヨーロッパコース



ドイツ留学を決めたのは、3年生になる前の春休み中でした。それまでは、留学に際して生じる、サークル活動やゼミ、就活時期への影響を懸念し、なかなか決心を付けられずにいました。しかし、留学するとしたら今しかない、異国の地に行って視野を広げたいという思いが最後まで残ったため、留学に行くことを決心しました。

今回のドイツ留学について、以下の4つに分けてお話ししたいと思います。始めに、ドイツで生活するにあたって必要な手続きについて。次にブレーメンでの生活、そして学校生活について。最後に、私の経験や感想を述べたいと思います。

① 必要な手続きについて

出発前にしたことと現地到着後にしたことに分けてお話しします。前者について、留学が近づくとブレーメン経済工科大学の **International Office** から手続きに関するメールが送られて来ます。そのメールに指示が書かれていたので、それに従って行動しました。中でも大事なことは、部屋探しと前期の学費（ゼメスターチケット代）の支払いを早めに済ますことです。部屋探しは、部屋がなかなか見つからないこともあるので、気になる家があればすぐに大家さんにメールを書いた方がいいです。また、現地で行う手続きの際に必要な書類

(パスポートの写真や残高証明書など) を、日本にいるうちに揃えておく必要があります。たびレジへの登録や日本の保険への加入も忘れずに行う必要があります。

現地では、保険加入、住民登録、口座開設(普通口座)、ビザ申請の順に手続きをしに行きます。保険加入の手続きは、オリエンテーションの時期に学校で行うことができます。住民登録は、街中にある **Bürger Service Center** という役所に行きます。予約は必要ありませんが、手続きできる時間が限られているのと、同じように手続きをしたい人がたくさん来るので、朝7時頃には並んでいるようにしました。銀行は、一番店舗数が多く、いつでもお金を引き出しやすい **Sparkasse** が良いと勧められました。Am Brill にある店舗が大きく、多くの留学生はそこで口座を開設しています。契約した保険会社には、口座開設後に口座番号を伝える必要があります(今後、保険料を支払うため)。ビザ申請に必要な全ての書類がそろったら、それを持って **BSU (Bremen Service Universität)** へ申請しに行きます。実際にビザが降りるまでに、そこからまた約一か月かかるので、早め早めの行動が大事になります。

② ブレーメンでの生活について

ブレーメンは他の大都市に比べると田舎です。しかし、街の中心にショッピ

ングストリートがあり、スーパーやカフェをはじめ、H&M や ZARA といった洋服店、雑貨屋やドラッグストアなどが立ち並んでいるのと、街から少し離れた場所にも2つのショッピングモールがあるので、日常生活に必要なものはそういうところで大体揃えられると思います。また、買い物が好きな友達はよくハンブルクにも行っていました。ハンブルクはベルリンに次ぐドイツ第2の都市ですが、ブレーメンからは電車（1時間半くらい）で無料で行くことができます。近代的な部分とは反対に、ブレーメンには聖堂や教会、昔ながらの雰囲気が残る地域や建物もあります。また、天気の良い日に川沿いを散歩したり公園でのんびりしたりできるので、都会とはまた違って落ち着いた印象を受けました。ブレーメンの気候は穏やかなので過ごしやすいです。私はサッカースタジアムの近くに住んでいました。サッカーの試合がある日以外は、ゆったりとしている場所だったので勉強するにしてもとても環境が良かったです。ブンデスリーガが行われる日は、スタジアム周辺にユニフォームを着たサポーターが集結し、ビール瓶を片手に盛り上がっていました。街中のカフェやバーでも試合が放送され、夢中になっているお客さんをよく見かけました。家から一番近いスーパーは、トラム（路面電車）で5分くらいのところにありました。街にもトラム1本で10分程で行けたのでとても便利でした。たくさんのお店や観光地がギュッと凝縮されていて、ブレーメンは生活するのにとても便利な街で

す。治安は、駅周辺、Gröpelingen という地域、郊外を除いては比較的良い方だと思います。しかし、スリなどの軽犯罪は多いので人が集まる場所では常に注意しなければなりません。

③ 学校生活について

私たち県立大学からの留学生は皆、International Business という学部に所属します。受講できる授業の種類としては、英語で開講される一般の授業、ドイツの学生に交じってドイツ語で受講する授業、そして語学の授業（ドイツ語か英語）です。日本人留学生は、通常一クラス 160 ユーロかかる語学のコースを 2 つまで無料で受けられます。そのため、私は 1 年間で違うレベルのドイツ語の授業を 4 つ履修することができました。（「ドイツ語 A2.2」「ドイツ語 B1.1」「ドイツ語 B1.2」「経済ドイツ語 B2.2」）レベル B1 の先生は、生徒にたくさん話を振って、自分の言葉で話させる方でした。レベルにあったドイツ語の表現やより良い自然な言い方をたくさん教えて頂き、効率よくドイツ語を学ぶことができました。なにより、間違いを恐れずとにかく話そうという雰囲気の中で言語を学べたことは、ドイツ語を話す時の自信にも繋がったと思います。しかし、語学の授業はいつも 18 : 00 か 19 : 45 の開始だったので、夕飯の時間と重なっていたのが少し大変でした。

ブレーメン経済工科大学には、日本語と日本語の経済が学べる専攻があるため、日本に興味を持っている学生とたくさん出会うことが出来ます。ドイツにはタンデムといって、日本語を学んでいるドイツの学生とペアを作って、お互いの言語や文化を教え合うシステムがあります。授業の無い日や空き時間にも、タンデムを有効活用してドイツ語を勉強することができます。私は、タンデムパートナーの子と旅行をしたり、何度か家に招いてもらってみんなでお食事をしたりすることもありました。互いの語学を勉強しているので、分からないことがあれば気軽に質問できる点がとても良かったです。スケジュールが合えば、何人ともペアを組むことができます。

④ まとめ

留学前は、準備に追われ、手続きや異国の地での生活のことを考えると不安でたまりませんでした。しかし、いざ行ってみると意外とどうにかなるもので、慣れてくればそれが普通になりました。また、学校が始まれば、友達もできてだんだんコミュニティーが広がっていきます。そうになると、もう怖いものなしです。例えば、保険の契約で問題があっても、保険会社に一緒に来てくれたり、電話をかけてくれる誰かが必ずいます。私も困ったことがある時は、すぐにドイツ人の学生や日本語を教えている日本人の先生に相談していました。

みんなが助けてくれます。

私にとってドイツに行くことは長年の夢でした。ああドイツではこうなのか、と初めの頃は毎日新しいことを経験するのが楽しくて全てが新鮮に思えました。もちろん、違う言語が話される国にいて、相手の言ってることが理解できなかったり、言いたいことが上手く言えずにもどかしく感じることは日常茶飯事でしたが、それにショックを受けたり、誰かと話すのが怖いと思うようなことは一度もありませんでした。というのは、はじめから大家さんが親切にしてくださいったり、学校には困った時にいつでも助けてくれる人たちがたくさんいたり、一緒の家に暮らしていた韓国人の女の子とその友達と気軽に色々な話ができる環境にいたことがとても大きかったと思います。本当に周りの人たちに支えられました。

私の中で一番濃い留学の思い出は、とても仲良くなったドイツ人の子とその家族と一緒に過ごした休日です。ブレーメンでは大家さんと一緒に建物に住んでいましたが、住む階が違ってあまり交流が無かったのを顧慮してくれたのか、家にお邪魔させてもらった際に、その子とその子の両親が「学期休み中やクリスマス、イースター休暇中もこっちに居ていいよ。そしたらドイツ語の勉強のためにも良いと思うし、それにドイツの文化も見せてあげたい。」と言ってくれました。それを聞いてとても嬉しかったのですが、今までそんなオープンな

ことを言われたことが無かったので、初めは少し戸惑いました。しかし、「是非！」というように言ってくれたので好意に甘えてお家に居させてもらうことにしました。ドイツの文化をたくさん教えてくれただけでなく、ブレーメンに帰る時に料理やケーキをタッパーに入れて持たせてくれたり、おばあちゃんがケーキやクッキーの作り方を教えてくれたり、みんなが私に対して家族の一員のように接してくれて、本当にありがたいと思っています。毎回会うたびに多くのことを教わり、ドイツ語もそうですが、自分の中身も成長することができました。留學生活が終わった今でも、ビデオ電話をしたりして繋がりを持っているのは嬉しいです、この出会いは一生ものになりました。

留學が全く想像していなかったものになりましたが、ただ今思うことは、留學に行って、行くことができ本当に良かったということです。今まで生きてきた環境とは全く異なる環境で一年間過ごしたことで、いろいろな気づきがあり、考えることも多々ありました。ドイツで経験したことや感じたことを大切に、今後に繋げていきます。